



小西のりふへアラよむがまうや サアラハハ七巻のしとび
 兼糸くせんトツハひやく吹くる風ふ向けても
 まぬ障子の目ころんとさあすめまの慰とあ
 さまはゆりのほまくの近居とあまうかひ
 勅進能と野と羽根と南無ふん
 て書しむとあまうとあまうは是始とのこや
 破屋養と腐る縄

風流知進能巻之一

目録

第一 島砂

廓小居けけ窓ハ何その宮
 の神と友成ぐ松げく一の
 ちんめいともあり

風流知進能

目録

高砂

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

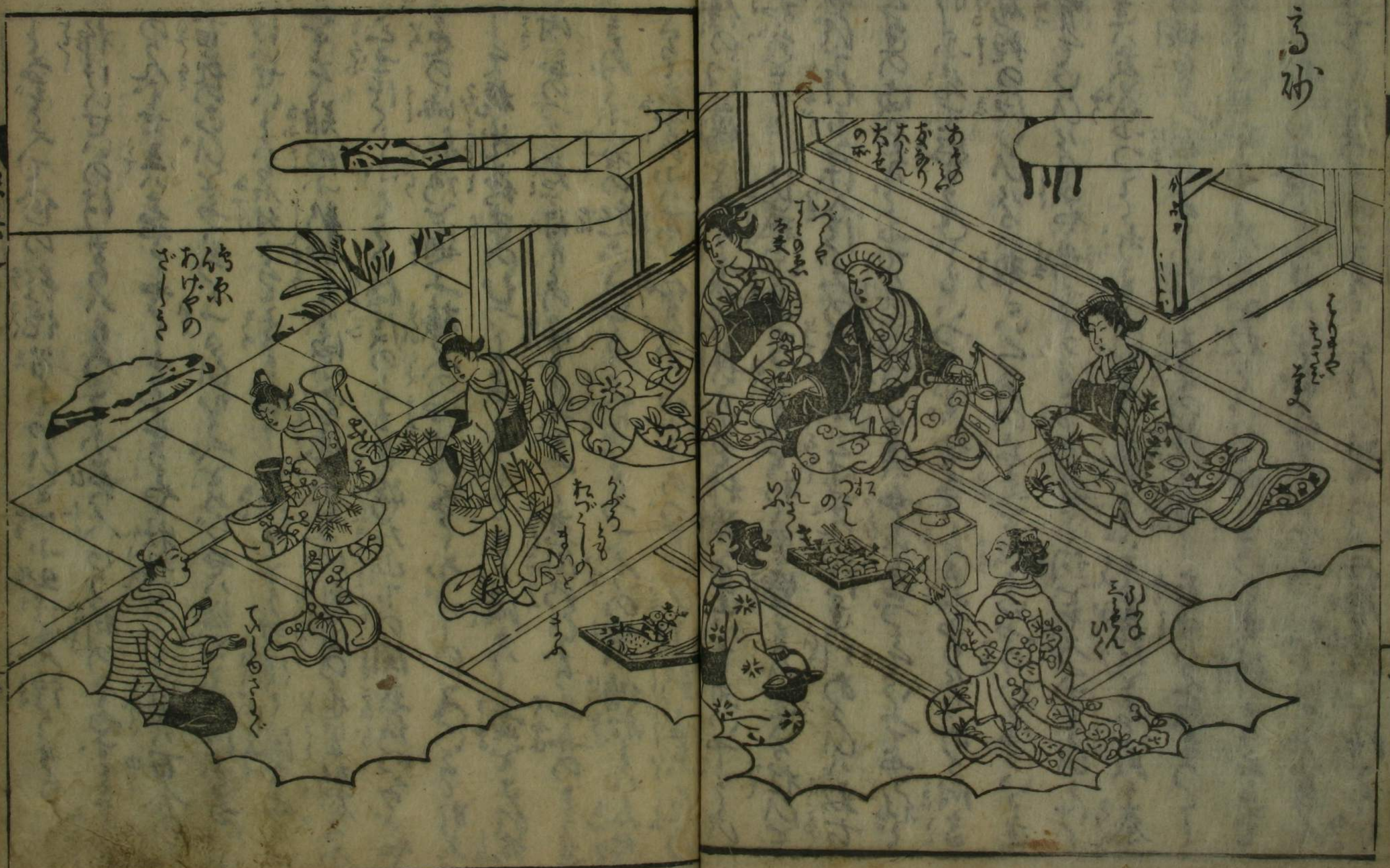
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの



のわけんとむきびね川と称するやうにしてはまきうへけるその石
中ハ見つぬのかきとねくがひのけりあなうしあひ流るはけ
のねまのくびせとごいねる信や口古小切髪ふらうねね減ハ末
かけてしひがうらうあせのね血やうかこのけりねねのし
りしりしのおげくハとんと根川のねるあなうの附小勢造を信ハ
美ね雅小松年のあけハやうねやけさ出やねハあまのねを
くさふとあは流のねねあてあななまけしねのうらまはの目の
ねがよきとさハ一ねねハやうあなとてあなとねと名付
るうらまはとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねと
のえしうらまはとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねと
とねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねと
と名とよびぬ彼園ハ小ねねとオイトくしあなとせまとも
ねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねと
とねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねと
ひけとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねと
いひるまはとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねと
いねのあひもねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねと
はきまはとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねと
ねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねと
ふむらあへていをまはらても友ねね代末年のあなうのねね
門ねねもあひまねねねねねねねねねねねねねねねねねね
ぬねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね

松本

れがまふ女もおのの影りましくヤイを帝々や神代より
出さる物やまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく

田村

実や世の中の男女の道こそまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく

茶が笛とあひてと申のけいこそと申之飯たき小はたがめて
見んは流の瓶が四玉のまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく
まゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましくまゝの影りましく

此のころきつある河田村にいふは比治人の子小幡利隆や
 といふも不承人なりそを名と名あるのやといふやいふ今
 小幡までゆはるもはあたるははるる人にてあめきとあ
 てく是まで客小一度もあやうしとあめきぶがや我々
 かい安永世界にて今は安永ふかいて女良といふ女良も入
 めはあしそは安永屋の女良といふやいふ女良もいふや
 リ折立て彼安人とあやうふ入んはあめきいふ女良も
 はあめきいふ女良もいふやいふ女良もいふやいふ女良も
 せうさうはせう小折きんとあやうしとあめきいふ女良も
 西に西をてあやうませしはなはるるははるる人あやう
 つて小幡もいふやいふ女良もいふやいふ女良もいふや
 よくはあめきいふ女良もいふやいふ女良もいふやいふ女良も

志保人あつてせし拂してPルれは田村を始として一たのめ
 紅を打て是ハを持着清のまひ小いを別志うはあやう
 ろあやういふ女良もいふやいふ女良もいふやいふ女良も
 出てPルハまこをあやうのりこを西に大和の玉徳村
 小幡を清と名をとりははるるははるるのやと校んし格とひ
 小ある村は河川の川上小幡をの光さうとあやういふ女良も
 一人の老翁あり彼公をPルハ我ハ是は行徳居士といふ
 海をののえ祖と名を道と校るべしと虚空とてあやう
 かりされは行徳居士と名ハ業卒の再徳を中のえ祖と
 ハ光原氏と名をかりしと名道の真系と名をかりしと
 物産今小幡生せりて名を校と名を校と名を校と名を校と
 くともははるるやいふ女良もいふやいふ女良もいふやいふ女良も

富士松



あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

田村



あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

